

北見市地域公共交通会議における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

北見市は北海道の東部に位置するオホーツク圏最大の都市である。地域の公共交通は鉄道(JR)、路線バス、タクシーであるが、特に市民の移動手段となる路線バスは社会情勢の変化に伴い、年々利用者数が減少傾向にある。しかしながら、公共交通は日常生活の中で、重要な役割を担っており、超高齢社会を迎える本市での必要性はより一層高まってくる事が推測される。このことから、持続可能な公共交通の体制を構築することを目標に掲げ、地域間幹線系統と接続するフィーダー系統を組み合わせることによって生活交通ネットワークの構築を進めていく。

生活交通確保維持改善計画の目標

○夕陽ヶ丘線(小泉8号-西8号-小泉8号)
令和元年度の実績である1日あたりの乗車人数449人の維持をめざす。

○川東・若松地域コミュニティバス線
令和元年度の実績である1日あたりの乗車人数34人の維持を目指す。

令和3年度事業概要

○夕陽ヶ丘線(循環線:小泉8号-西8号-小泉8号)
・運行日数 364日・運行回数 平日及び土日祝日14回/日 計5,096回 ・運賃 市内均一210円(片道)
小泉8号を起点・終点とする循環線である。運行経路には、大型商業施設、医療施設、大学、高校など、市内主要施設を循環する路線として運行している。

○川東・若松地域コミュニティバス線(北見-川東・若松-北見)
・運行日 365日 ・運行回数 平日9回(往復)、休日8回(往復) 計3,165回 ・運賃 路線バス区間均一210円(片道) デマンド区間420円(片道)
北見バスターミナルを起点・終点とする路線バス区間とデマンドバス区間による運行を行っている。若松大橋から川東住宅街を廻り、北見老人ホームまでを路線バス区間とし、北見老人ホームから川東郊外及び若松地域を予約制のデマンドバス区間として運行している。

地域公共交通の現況

- ・JR石北本線(北見駅、他9駅)
- ・北海道北見バス(株)(25路線)、
網走バス(株)(2路線)、市営バス(2路線)
- ・スクールバス(13路線)
- ・タクシー(市内4事業者)

協議会開催状況

令和3年2月15日 令和2年度第4会議(書面協議)
・市営バスの運賃変更について

令和3年4月21日 令和3年度第1回会議 開催
・令和3年度公共交通利用促進策(案)について

令和3年6月7日 令和3年度第2回会議(書面協議)
・令和4年度地域内フィーダー系統確保維持計画について
・市営バスの運賃変更について

令和3年7月16日 令和3年度第3回会議 開催
・路線バス実証運行(大正線・豊地線)について(案)
・留辺薬市街地コミュニティバスの実証運行について(案)
・留辺薬運動公園線・温根湯線の経路変更について(案)

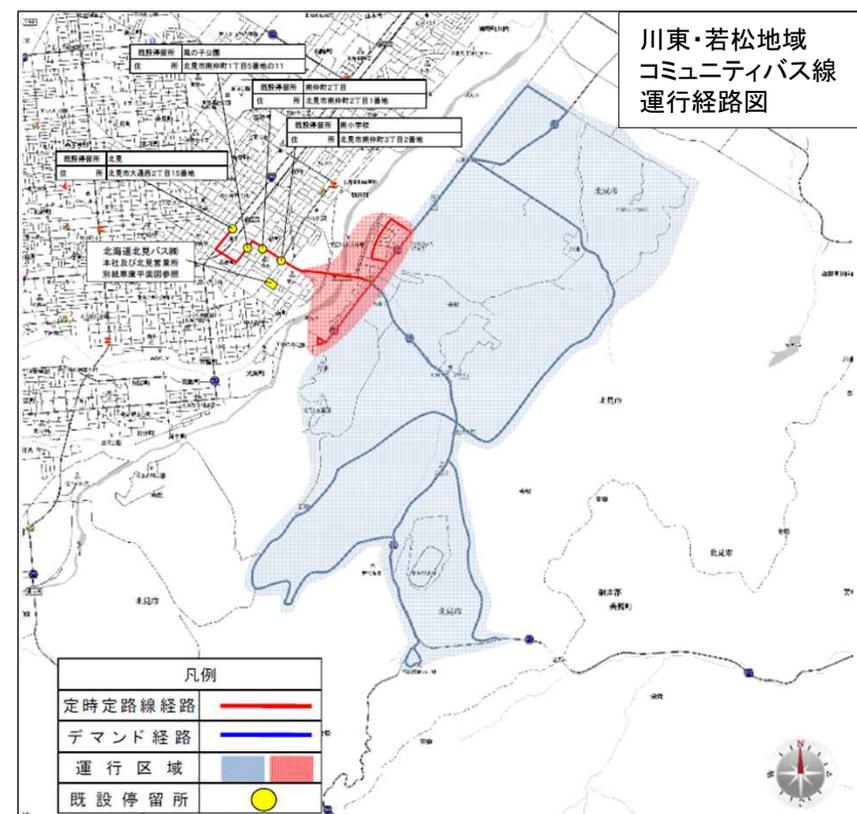
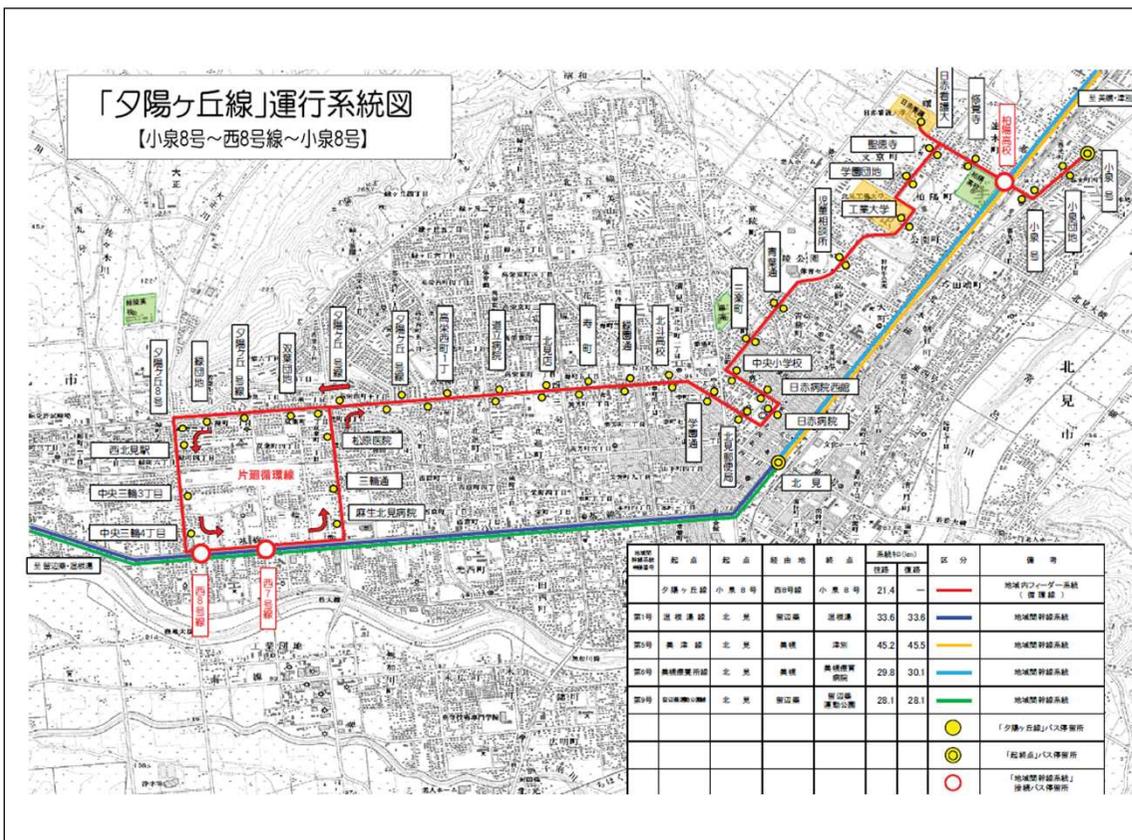
令和3年12月28日 令和3年度第4回会議(書面協議)
・令和3年度地域公共交通確保維持改善事業・事業評価について

1) プロセス、創意工夫

【夕陽ヶ丘線、川東・若松地域コミュニティバス線】

- ・バス車内における新型コロナウイルス感染症対策の紹介を掲載した「ニュースレター」を発行し、全戸配布した。
- ・バス通学のきっかけづくりとして、市内高校生に路線バスICカード(3,000円相当)を配布した。
- ・市内中心部従業者へのモビリティ・マネジメントとして、アンケート調査を実施し、動機付けパンフレット配布した。
- ・夕陽ヶ丘線でのバスロケーションシステムの実証実験を実施した。
- ・地元大学と協力し、川東・若松地域コミュニティバスのアンケート調査を実施した。

2) 運行系統



3) 利用実績

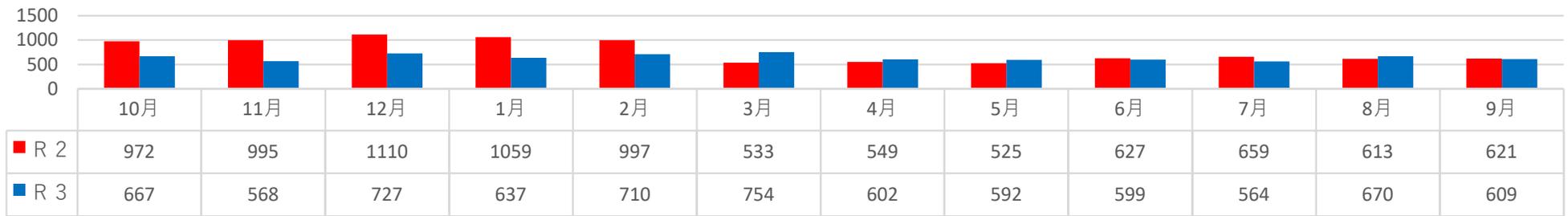
令和3年度夕陽ヶ丘線バス利用者数月別実績(前年度との比較)

単位:人



令和3年度川東・若松地区バス利用者数月別実績(前年度との比較)

単位:人



4) 収入実績

令和3年度夕陽ヶ丘線バス収入月別実績(前年度との比較)

単位:円



令和3年度川東・若松地区バス収入月別実績(前年度との比較)

単位:円



5) 事業実施の適切性

○夕陽ヶ丘線

事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。

○川東・若松地域コミュニティバス線

事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。

6) 目標・効果達成状況

○夕陽ヶ丘線

利用目標449人/日に対し、実績は440人/日と目標に達することができなかった。新型コロナウイルス感染症による「まん延防止等重点措置」及び「緊急事態宣言」の発令下で、利用控えが続いたことで目標達成とはならなかったが、高校の再開や大学の対面授業が再開した等の通学・通勤利用が戻ったことにより令和2年度実績からは改善している。

○川東・若松地域コミュニティバス線

利用目標34人/日に対し、実績は21人/日と、目標に達することができなかった。新型コロナウイルス感染症による「まん延防止等重点措置」及び「緊急事態宣言」の発令下で、令和2年度から引き続き、利用控えが続いたためと考えられる。

7) 事業の今後の改善点

○夕陽ヶ丘線

新型コロナウイルス感染症の拡大状況を見極めながら、待合環境の整備等の取組を実施し、利用回復に努める。

○川東・若松地域コミュニティバス線

実態調査の結果を踏まえ、利用状況や地域の実情に合わせた運行経路・ダイヤの見直しを検討する。
また、新型コロナウイルス感染症の影響により減少した利用の回復につながる取組みの実施を検討する。

8) 地方運輸局における二次評価結果

(令和4年度分と併せて評価)